



東深沢中だより

<https://school.setagaya.ed.jp/thiwa>

世田谷区立東深沢中学校

校長 本田 仁

令和7年5月28日

第2号

地域連携

校長 本田 仁

通常学級134名、特別支援学級5名の新入生を迎える、全校生徒数440名で本年度の教育活動がスタートしております。新1年生も引き続き4学級を維持することができました。これも保護者の皆様や地域・学校関係者の皆様の本校の教育活動へのご理解とご協力の賜物と感謝しております。

本年度も「心に響く指導」を基盤として教育活動を進めてまいります。

本年度の重点目標は以下の5つとなります。

- (1) 「楽しい授業」の実践と発展・追求により「学びは楽しい」と実感させ、「楽しいからもっと考えたくなる、考えるからもっと楽しくなる」という探究のスパイラルを身に付けさせ、「学びを自ら深め、自らデザインする力」を育成する。
- (2) ICT(タブレット端末)の活用を学習のスタンダードとして定着させることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。また、デジタルのスキルや行動範囲、デジタル・リテラシーを身に付け、デジタル社会に積極的に関与し、参加する能力を学ぶデジタル・シティズンシップ教育を推進し、Society5.0の時代に必要な力の育成を図る。さらに、デジタル・シティズンシップを身に付けることでアナログの良さや意義についても教育活動を通じて再思考する。
- (3) 「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる」を柱として、多様性を肯定的に捉える高い人権感覚と人権意識を醸成し、ちがいを当たり前のこととして、多様な価値観を受け入れ、積極的にかかわり、つながり、共感・協働できる柔軟な人間関係形成力を確実に身に付けさせる。
- (4) 地域とともに歩む学校として、「学校支援地域本部」及び「東深沢・等々力コミュニティー」「東深沢スポーツ・文化クラブ」と連携・協働した教育活動を推進し、生徒に地域社会の一員としての自覚と実践力を身に付けさせる。
- (5) すべての教職員が健康で豊かな生活のための時間を確保するためにライフワークバランスを推進し、教育の現場において、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方の選択ができる限り可能であり、個々の教職員の多様性が尊重される温かい職場環境づくりを目指す。

本年度は、世田谷区研究指定校として「魅力ある学校づくり」の研究に取り組んでまいります。具体的には「地域との学びの連携」を中心に研究を進めます。もちろん地域の方々に授業を丸投げするわけではありません。「学び」と言うと「授業(勉強)」をイメージする方も多いと思いますが、子どもたちにとっては授業だけではなく、体験したり、経験したり、考えたりすることすべてが学びであり、成長していくためにはとても大切なことです。ただし、何か特別に新しいことを始めるわけではありません。これまで地域の方々と連携して取り組んできた地域行事やボランティア活動、体験活動などが生徒の学びに生かされていることを明確にしていこうと考えています。この「地域との学びの連携」を生徒の非認知能力の伸長にしっかりと結び付けていきたいということです。

本校には、「東深沢・等々力コミュニティー」と「東深沢スポーツ・文化クラブ」という両輪で生徒たちや学校を支えてくださっている団体があります。また、各町会や青少年深沢地区委員会の方々も生徒たちの健全育成のために尽力してくださっています。

本校を会場として行われる二大地域行事と言えば、東深沢・等々力コミュニティーが主催する「フリーマーケット」と東深沢スポーツ・文化クラブが主催する「スポーツ文化フェスティバル」になります。この二つ以外にも、夏休みの「ラジオ体操」や「ウォークラリー」、「桜まつり」、「サマーフェスティバル」、青少年深沢地区委員会主催の「中学生の主張大会」、さらに、地域の方々にお世話になっている活動には、ステップや英検・漢検、地域清掃、あいさつ運動、花ボラ、茶道教室などがあり、空手の授業やお箏の授業でも講師として地域の方々にお世話になっています。もちろん職場体験や職業講話を代表とするキャリア学習でも地域にお世話になっています。そして、12月末の「スキー・スノボ教室」も地域と学校が連携して実施する大きな行事です。

まだまだあると思いますが、大切なのは「かかわり、つながる」ことです。「お手伝いする」「出演する」「参加する」「見学する」「ちょっとのぞいてみる」などのかかわり方を価値付け、生徒たちの成長につなげていきたいと考えています。